高津子山からの水軒浜遠望

今 昔

昭和42年3月に埋め立てが完了し、水軒浜は材木工業団地となった。同45年には、材木輸送を目的として南海和歌山港線が和歌山港駅から水軒駅まで、水軒浜の松林の曲線に沿って2.6キロの区間が延長された。水軒駅にはホームが設けられたが、輸送需要はすでになく、この路線も平成14年5月に廃止された。

紀ノ川河口から水軒川河口にかけて、水軒浜の白砂と松林がS字状の曲線を描いている。平野部では、田畑の中央を水軒川が直線状に流れているのがわかる。当時、この河口ではアサリがたくさん捕れた。松林の右上の方にうっすらと見える花王石鹸の工場は、戦時中の昭和17年に操業を開始。当時の社名は大日本油脂であった。(岩西正大氏撮影)